

小林義雄\*：冬虫夏草類雜記 (15)\*\*

Yosio KOBAYASI: Miscellaneous notes on the genus  
*Cordyceps* and its allies (15)

71. *Cordyceps ditmari* Quélet, in Bull. Soc. Bot. Fr. 24: 330 pl. 6 f. 14a-f (1877); Cooke, Veg. Wasps p. 55 f. 15 (1892); Massee, in Ann. Bot. 9: 16 (1895); Cejp, in Cesk. Mykol. 10(1): 31 f. 7 (1956).

Hab. Adult *Vespa*, Hymenoptera, France. Type in Herb. Jard. Bot., Paris.

パリーにはフランスの Saint-Dié (Vosges) 等で採られた 3 組の標本がある。そのうち写真 (Fig. 8) に示すものがタイプと思われる。写真では見にくいが左の個体の上に薄い鉛筆書で子囊、孢子、2 次孢子、分生子などが画かれてあり、これは Quélet の論文の原図となったようである。2 次孢子は両端裁断された普通の形である。私はこの標本に手を触れることは差控へた。したがって被子器の様子は不明である。本種の種名であるが、Quélet によると、Ditmar が本菌の分生子型は *Isaria sphēcophila* であるとの説をたてたことがあるので、彼の名を種名に採用したのだという。しかし Quélet 自身が Ditmari, Dittmari, Dittmarii の 3 通りを手記しているのでまぎらわしい。これについては

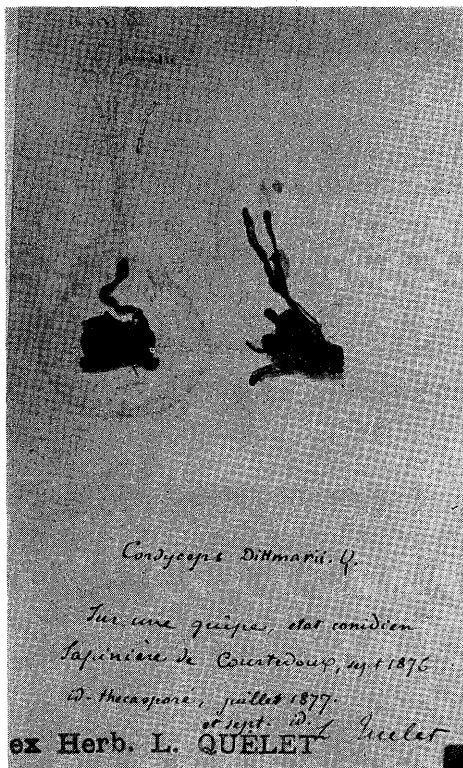


Fig. 8. *Cordyceps ditmari* (Type).

\* 国立科学博物館 National Science Museum, Tokyo.

\*\* 本誌 55: 180-188, 1980 から続く。

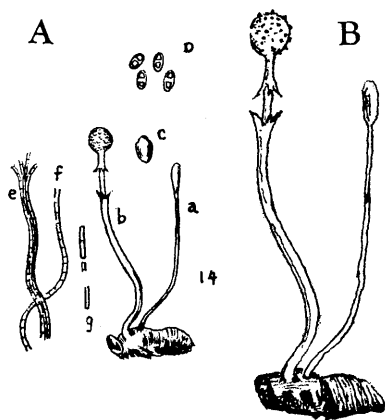


Fig. 9. *Cordyceps ditmari*. A. After Quelét. B. Recopied by Cooke.

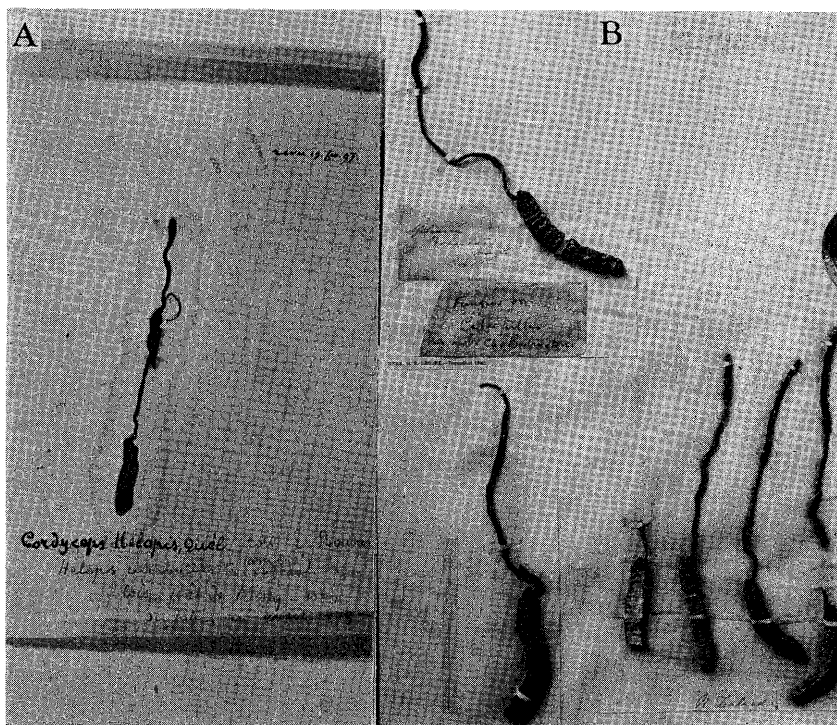


Fig. 10. A. *Cordyceps helopis* (Type). B. *C. robertsii* (upper specimen—Type)

Cooke, Massee 等は *Ditmar* の正式の名の通り *Ditmari* を採用して居り、私もこれに従った。なお挿図では柄の上部に裂け目の如きものが画かれているが、これは偶発的なものである。

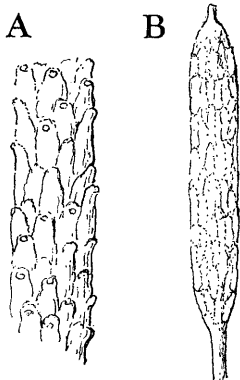


Fig. 11. A. *Cordyceps submilitalis*,  
×7.5. B. *C. oxycephala*, ×4.6.

72. *Cordyceps helopis* Quél., in Bull. Soc. Bot. Fr. 26: 236 (1879) et Assoc. Franç., Avanc. Sc. 26-session pt. 2: 452 pl. 4 f. 18 (1898); Sacc. Syll. Fung. 2: 570 (1883); Cooke, Veg. Wasps p. 117 f. 25 (1892).

Hab. Larva of *Helops caraboides*, Coleoptera, Jura, France, coll. by E. Boudier, April 1879. Type in Herb. Jard. Plant, Paris.

Massee の解説によれば、はじめ Quelét はフランスに於て種名不明の幼虫に寄生する菌に *C. larvicola* Quél. の名を与え 1878 年に発表した。ところが翌年に Boudier によってジュラで

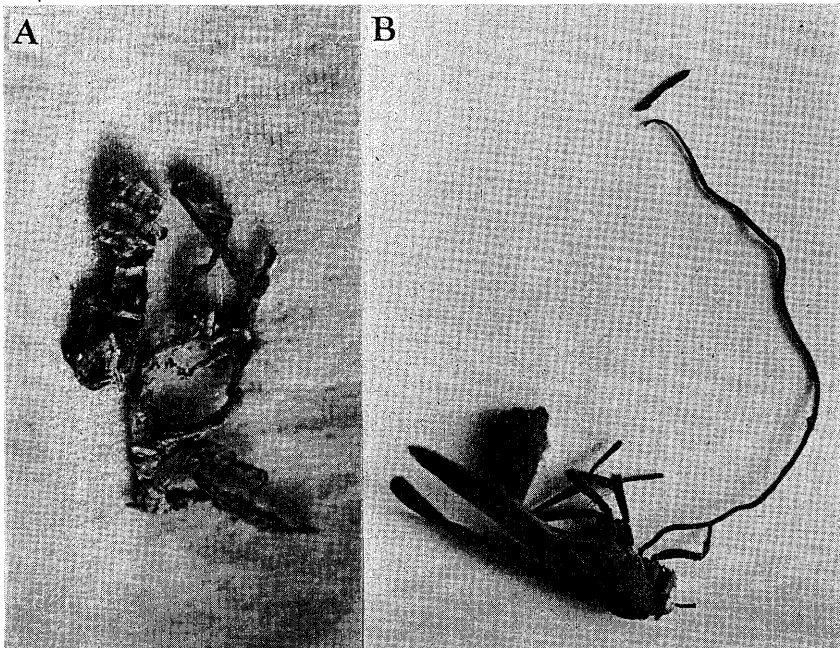


Fig. 12. A. *Cordyceps submilitaris*. B. *C. oxycephala*.

採られた同一菌 (Fig. 10A) の寄主名が *Helops caraboides* の幼虫であることが判ったので、改めて学名を *C. helopis* Quél. とした。しかし命名規約により先に発表された名 *C. larvicola* を有効とし、*C. helopis* をその異名にすべきだと述べている。しかし私にとっては斯んなことよりも菌の委しい構造を知ることが肝要なのだが、タイプの菌体は写真で見られるように糊で固着され、これを取ることは出来なかった。原記載によれば、頭部の長さ 5~6 mm、灰褐色で黒紫色の粒状突起を布く。柄は白色光沢があり、紅色を帯びた條線がある。被子器は埋生、卵形、2次胞子は球状~正六面体、径 2.5~3  $\mu$ 。私はこの2次胞子の形状を重要視する。

73. ***Cordyceps submilitaris***  
Henn., in Naturw. Wochenschr.  
11 (27) : 319 f. 4 (1896) ; Möller,  
Phyco. u. Asco. p. 224 pl. 7 f.  
95, 96 (1901).

Hab. Larva of Elateridae,  
Coleoptera, on a rotten stump in  
shade. Botanic Garden, Emperos  
Valley, Trinidad, W. India.  
Coll. by W.E. Broadway, Jan.  
1, 1908, kept in Kew.

Type. Coll. in St. Cathar,  
Prov. Brumenau, Brazil, kept  
in Dahlem—Damaged.

ここに掲げる写真 (Fig. 12A) と  
そのスケッチ (Fig. 11A) はトリニ  
ダード産で、子実体と寄主は離れて  
いる。その色は朱紅色、斜上向に並  
んだ被子器はスケッチのように密生  
し、小さな孔口が明らかである。ダ  
ーレムのタイプは消滅した。

74. ***Cordyceps oxycephala***

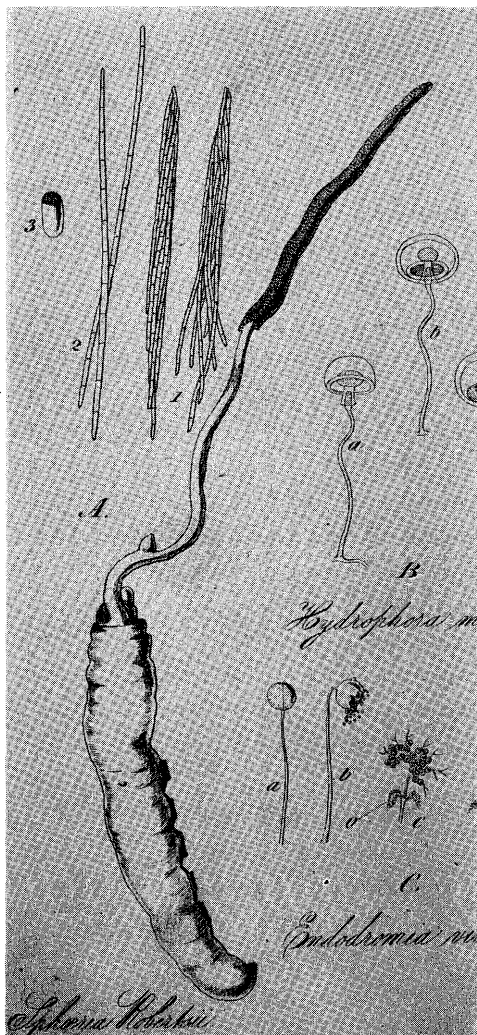


Fig. 12. *Cordyceps robertsii*, published by Hooker (1841).

Penz. et Sacc., in *Malpighia* 11: 821 (1897).

Hab. Adult of *Vespa* and *Bombus*, Hymenoptera. Lake region of Uganda, coll. by T. D. Maitland, 1919, kept in Kew. Type collected in Tjibodas, Java.

この挿図 (Fig. 11B) のもとになった標本 (Fig. 12B) はウガンダ産であり、タイプではない。頭部の先端の針状突起は折れて元の部分のみ残っている。頭部表面の凹突などから推して、この同定は正しいと思う。

75. *Cordyceps robertsii* (Hooker) Gray, *Notices Ins. Fungi* p. 6 pl. 2 f. 2, 4 (1858). Syn. *Sphaeria robertsii* Hooker, *Icon. Plant.* I pl. 11 (1837) et in Hooker, *Journ. Bot.* 3: 77 pl. 1A (1841).

Hab. Larva of *Porina* moth, Lepidoptera. Type in Kew, ex Herb. Ch. Badrington, New Zealand.

ここに示す写真 (Fig. 10B) の左上のものがタイプであり、これのスケッチ (Fig. 13) が Hooker (1841) の記載に添えられて居り、比較のために両者を掲げる。なおタイプ標本にはこの挿図の原図が添えられてあり、その左下に H. O. Stephens 描写とあり、右下には *Sphaeria stephensii* Berk. と走り書きされているが、この名は未出版に終わった。なおキューにはオーストラリアの Little Barrier Island 産の標本があり、これに添えて生態に関するメモがある。重要と思はれるのでここに転写する。

“Vegetable caterpillar: The *Porina* moth is a very common one and there are nineteen New Zealand species. The larval form of at least three of these (*ensyii*, *dinodes* and *signata*) ingest the spores of the fungus *Cordyceps*, while they feeding on roots underground. In time nearly all the animal tissue is replaced by the fungus and then a stroma grows from the mouth of the caterpillar, pushes its way above ground where it may be seen looking like a miniature bulrush. The fructification may be seen in late Spring to early Summer in New Zealand which is September-November. Sometimes the stroma may divide and have two or three heads.”

○サラサレンゲ補遺 (原 寛) Hiroshi HARA: On *Magnolia conspicua* var. *purpurascens* Maxim. again

本誌 55(6): 188-192 (1980) で大場氏は、ハクモクレンとモクレンの学名は *Dandy* の意見に従って採用するのが正しく、かつサラサレンゲは雑種ではなくハクモクレンの一品種であるとの見解を述べられた。前者は純然たる「命名」上の問題であり、後者は「分類」と「命名」が組み合った問題であるが、説明文中では分かり難い点があり、また残念ながらその扱いが不十分で重要な文献の見落としがあり、読者の誤解を招くおそれがあるので、敢えてここに補足することにした。